

# 境町学校施設長寿命化計画 概要版

## ■計画の背景・目的

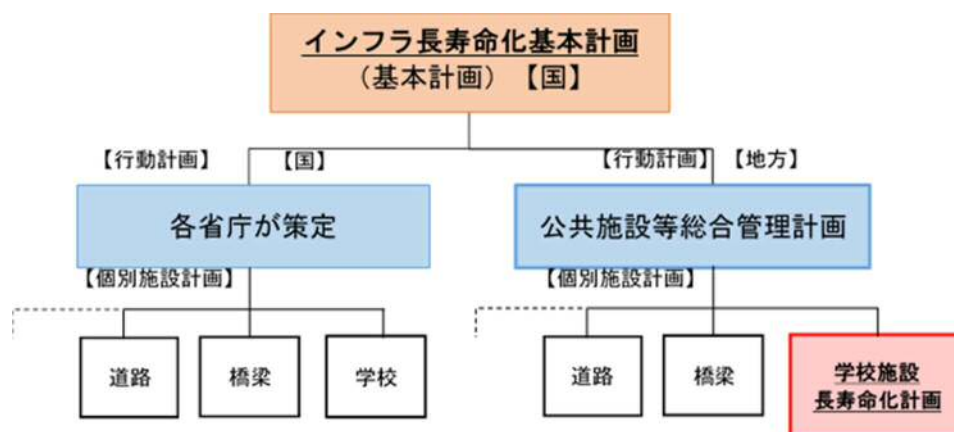
境町（以下、「本町」という。）では、総務省が平成 26（2014）年 4 月に全地方公共団体に對して「公共施設等の総合的かつ計画的な管理の推進について」を通知したことを受け、公共施設等の総合的かつ計画的な管理を推進することを目的に、平成 29（2017）年 3 月に「境町公共施設等総合管理計画」を策定しました。

本町は、57 施設、総延床面積にして約 8.7 万㎡の建築物系公共施設を有していますが、中でも高度経済成長期の人口増加とともに増加した児童生徒数による需要の拡大に合わせて整備を行ってきた学校教育系施設は、町保有の建築物系施設の約 51%と最も多くの割合を占めています。施設面積も大きい学校教育系施設は、安全安心な教育環境への対応をはじめ、災害発生時の避難所や地域の交流の場としての役割など多種多様な機能を有するために、これまでも本町では維持保全、安全の確保など老朽化対策に積極的に取り組んできました。しかしながら、今後の人口減少及び少子高齢化の進行や多様化する情報化社会の到来は、社会保障関連費の増加をはじめとして、町財政へ大きな影響を与えることは避けられないと見込まれます。そのような状況の中で、学校教育系施設は築年数から順次建て替えの時期を迎えることになり、施設整備にかかる財政への負担も増大していくことが予測されます。

「境町学校施設長寿命化計画」（以下「本計画」という。）では、町保有の学校教育系施設を将来にわたり安全・安心に使い続けるために、施設の現状や老朽化状況を把握し、今後の維持保全の方向性を示し、整備内容、時期、費用等の具体的な計画を策定します。

## ■計画の位置づけ

本計画は、インフラ長寿命化計画における個別施設計画に位置付けられます。また、境町公共施設等総合管理計画（平成 29（2017）年 3 月）に基づき、学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（平成 29（2017）年 3 月 文部科学省）を参考に策定します。



■本計画の位置づけ

## ■ 計画期間

本計画の計画期間は、令和 3 (2021) 年度から令和 42 (2060) 年度までの 40 年間とします。

しかし、今後の学校施設の整備に関する具体計画を長期の視点で策定することは、不確定な事項も存在し、明確な方向性を示すことが困難な施設が発生することも懸念されます。また、学校施設を取り巻く社会情勢や国の制度変化等への柔軟な対応も求められることから、おおむね 5 年を目安として、計画内容の見直しを行うものとします。

## 令和 3 (2021) 年度から令和 42 (2060) 年度の 40 年間

## ■ 対象施設

本計画の対象施設は、本町が保有する小学校 5 施設 14 棟、中学校 2 施設 9 棟を対象とします。

### ■ 対象建物一覧

施設番号	棟番号	学校名	建築年	建物名	建物用途	構造	延床面積 (㎡)
1	8	境小学校	1967	校舎1	校舎	鉄筋コンクリート造	2,260
	10	境小学校	1975	校舎2	校舎	鉄筋コンクリート造	2,432
	12	境小学校	1978	屋体	体育館	鉄骨造	997
2	10	長田小学校	1979	屋体	体育館	鉄骨造	713
	18	長田小学校	2011	校舎	校舎	鉄筋コンクリート造	4,112
3	12	猿島小学校	1977	屋体	体育館	鉄骨造	713
	13	猿島小学校	1978	校舎	校舎	鉄筋コンクリート造	2,936
4	16	森戸小学校	1974	校舎3(旧幼稚園園舎)	校舎	鉄骨造	367
	12	森戸小学校	1977	屋体	体育館	鉄骨造	713
	13	森戸小学校	1978	校舎1	校舎	鉄筋コンクリート造	1,938
	14	森戸小学校	1978	校舎2	校舎	鉄筋コンクリート造	827
5	11	静小学校	1972	校舎1	校舎	鉄筋コンクリート造	941
	14	静小学校	1979	屋体	体育館	鉄骨造	713
	15	静小学校	1980	校舎2	校舎	鉄筋コンクリート造	1,754
6	19	境第一中学校	1979	校舎1	校舎	鉄筋コンクリート造	1,985
	24	境第一中学校	1984	屋体	体育館	鉄筋コンクリート造	1,410
	26	境第一中学校	1989	武道	武道場	鉄骨造	527
	28	境第一中学校	2007	校舎2	校舎	鉄筋コンクリート造	4,355
7	12	境第二中学校	1988	武道	武道場	鉄骨造	500
	14	境第二中学校	1990	校舎1	校舎	鉄筋コンクリート造	399
	15	境第二中学校	1995	校舎2	校舎	鉄骨造	253
	16	境第二中学校	2003	校舎3	校舎	鉄筋コンクリート造	3,995
	19	境第二中学校	2013	屋体	体育館	鉄骨造	1,254

資料：公立学校施設台帳（令和 2 (2020) 年）

## ■ 学校施設の目指すべき姿

### 目指すべき姿 1 安全・安心な学校施設

- ・防犯対策や安全性に配慮した施設の整備を図るとともに、ユニバーサルデザインを取り入れるなど、バリアフリー化を推進し、児童生徒だけでなく、誰もが安心して利用できる学校施設を目指します。

### 目指すべき姿 2 充実した教育を実践できる学校施設

- ・先進的な英語教育（SGS（スーパーグローバルスクール）事業）をはじめとする、すでに導入している事業に加え、ICT教育の導入など社会の変化に対応した教育環境の整備により、これからの本町を担い、自ら学ぶ意欲、豊かな人間性を持つ児童生徒を育成するための、充実した教育を実践できる学校施設を目指します。

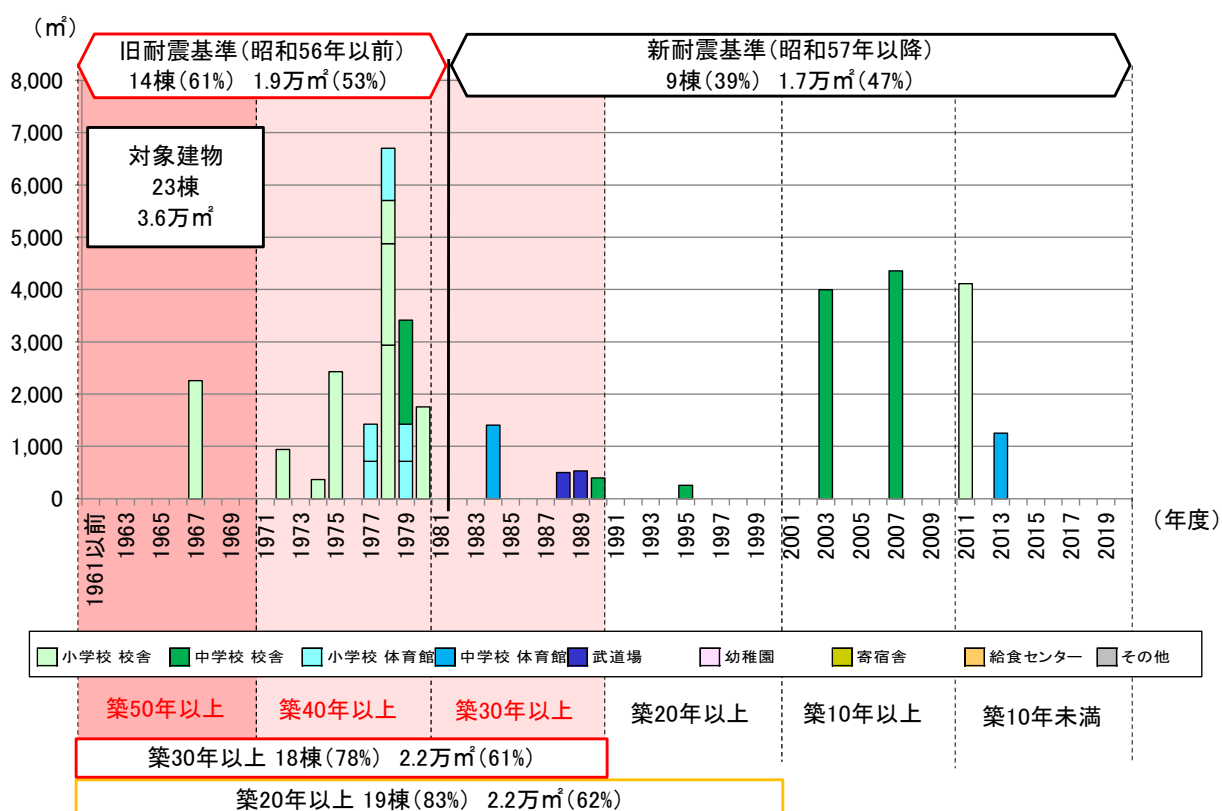
### 目指すべき姿 3 地域と連携した学校施設

- ・豊かな人間性を育むため家庭・学校・地域の連携を推進し、教育環境の充実を図るとともに、防災拠点としての役割を担う施設として、災害時の対応に配慮した施設整備を図ります。

## ■ 学校施設の保有量

学校施設の保有量を建築年別にみると、1970年代に建設の時期が集中しているほか、2000年代から2010年代にも一定の量の施設が整備されています。

昭和56（1981）年以前に建築された旧耐震基準の建物が14棟（約1.9万㎡）と全体の61%を占めているものの、全ての建物について耐震補強工事が完了しています。



■ 建築年別整備状況

## ■学校施設の老朽化状況の実態

### <構造躯体の健全性の評価>

解説書に示されている「長寿命化の判定フロー」に基づいて、建物の築年数、コンクリート圧縮強度等により、構造躯体の健全性を評価し、長寿命化した場合の維持・更新コストを試算する上での保全手法を設定します。

### <構造躯体以外の劣化状況等の評価>

「境町劣化状況調査マニュアル」に基づき、目視による劣化状況調査を実施し、建築部位、設備ごとの劣化状況をA、B、C、Dの4段階で評価しています。「B、C、D」と評価した部位の劣化状況を一例として示します。

	B	C	D
屋根・屋上	 猿島小学校 (校舎) 部分的に擦れ	 静小学校 (校舎1) 水たまりや広範囲に擦れ	
外壁	 境第二中学校 (校舎3) 部分的に汚れ	 境第一中学校 (校舎1) 広範囲にクラック	 森戸小学校 (校舎3) 広範囲に大きなクラック
内部	 境第二中学校 (校舎3) 部分的に雨漏りやクラック	 森戸小学校 (校舎1) 雨漏りやクラック、床材擦れ	

劣化状況評価結果一覧

A : 概ね良好  
B : 部分的に劣化  
C : 広範囲に劣化  
D : 早急に対応する必要がある

2020 基準

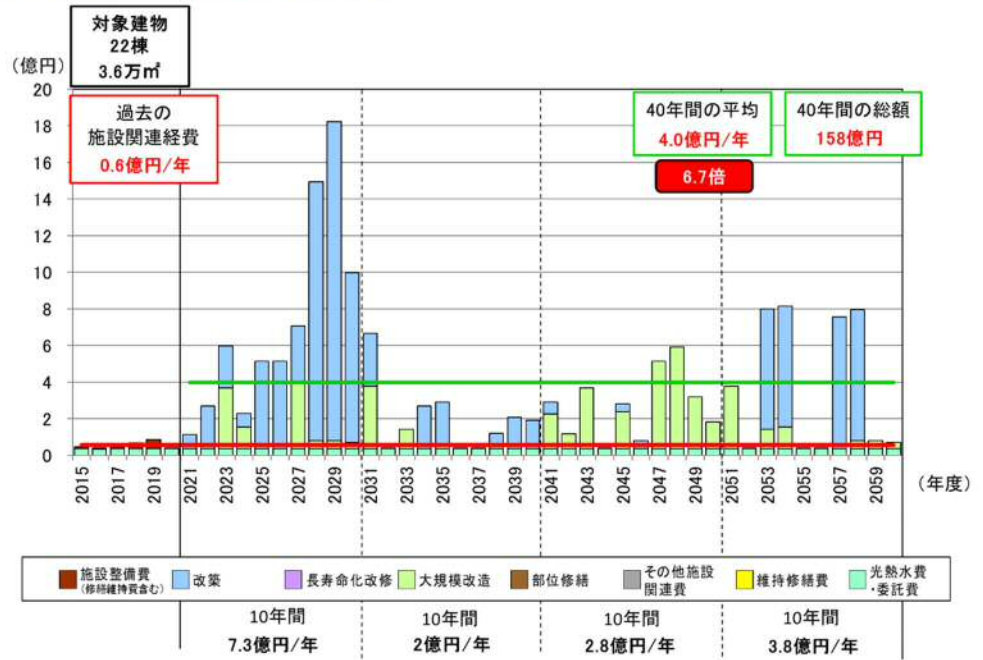
■ : 築50年以上  
■ : 築30年以上  
■ : 築50年以上

建物基本情報										構造躯体の健全性										劣化状況評価				
通し番号	学校調査番号	施設名	建物名	棟番号	用途区分		構造	階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	建築年度		築年数	耐震安全性		調査年度	圧縮強度(N/mm <sup>2</sup> )	長寿命化判定	試験上の区分	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度(100点満点)
					学校種別	建物用途				西暦	和暦		基準	診断										
1	1	境小学校	校舎1	8	小学校	校舎	RC	3	2,260	1967	S42	53	済	H21	24	長寿命	A	A	A	B	B	B	94	
2	1	境小学校	校舎2	10	小学校	校舎	RC	3	2,432	1975	S50	45	済	H9	29	長寿命	A	A	A	B	B	B	94	
3	1	境小学校	屋体	12	小学校	体育館	S	2	997	1978	S53	42	済	H21	-	長寿命	B	B	B	B	B	B	75	
4	2	長田小学校	屋体	10	小学校	体育館	S	1	713	1979	S54	41	済	H21	-	長寿命	B	B	C	B	B	B	62	
5	2	長田小学校	校舎	18	小学校	校舎	RC	4	4,112	2011	H23	9	-	-	-	長寿命	B	A	A	A	A	A	98	
6	3	猿島小学校	校舎	13	小学校	校舎	RC	3	2,936	1978	S53	42	済	H21	29.5	長寿命	B	B	C	B	B	B	62	
7	3	猿島小学校	屋体	12	小学校	体育館	S	1	713	1977	S52	43	済	H21	-	長寿命	B	B	B	B	B	B	75	
8	4	森戸小学校	屋体	12	小学校	体育館	S	2	713	1977	S52	43	済	H21	-	長寿命	B	B	B	B	B	B	75	
9	4	森戸小学校	校舎1	13	小学校	校舎	RC	3	1,938	1978	S53	42	済	H21	21.4	長寿命	B	B	C	B	B	B	62	
10	4	森戸小学校	校舎2	14	小学校	校舎	RC	2	827	1978	S53	42	済	H21	21.4	長寿命	C	B	C	C	C	C	50	
11	4	森戸小学校	校舎3(旧幼稚園園舎)	16	小学校	校舎	S	1	367	1974	S49	46	-	-	-	-	C	D	C	C	C	C	31	
12	5	静小学校	校舎1	11	小学校	校舎	RC	3	941	1972	S47	48	済	H21	19.1	長寿命	C	B	C	C	B	B	59	
13	5	静小学校	屋体	14	小学校	体育館	S	1	713	1979	S54	41	済	H21	-	長寿命	B	B	C	B	B	B	62	
14	5	静小学校	校舎2	15	小学校	校舎	RC	4	1,754	1980	S55	40	済	H21	36.3	長寿命	B	C	C	C	B	B	52	
15	6	境第一中学校	校舎1	19	中学校	校舎	RC	3	1,985	1979	S54	41	済	H21	32.2	長寿命	B	C	C	C	B	B	52	
16	6	境第一中学校	屋体	24	中学校	体育館	RC	1	1,410	1984	S59	36	新	-	-	長寿命	C	C	C	C	C	B	49	
17	6	境第一中学校	武道	26	中学校	武道場	S	1	527	1989	H1	31	新	-	-	長寿命	B	B	C	B	B	B	62	
18	6	境第一中学校	校舎2	28	中学校	校舎	RC	3	4,355	2007	H19	13	新	-	-	長寿命	A	B	A	A	A	A	93	
19	7	境第二中学校	武道	12	中学校	武道場	S	1	500	1988	S63	32	新	-	-	長寿命	B	C	B	B	B	B	65	
20	7	境第二中学校	校舎1	14	中学校	校舎	RC	3	399	1990	H2	30	新	-	-	長寿命	B	C	C	C	B	B	52	
21	7	境第二中学校	校舎2	15	中学校	校舎	S	1	253	1995	H7	25	新	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	B	75	
22	7	境第二中学校	校舎3	16	中学校	校舎	RC	3	3,995	2003	H15	17	新	-	-	長寿命	B	B	B	B	A	A	81	
23	7	境第二中学校	屋体	19	中学校	体育館	S	2	1,254	2013	H25	7	新	-	-	長寿命	B	B	A	A	A	A	91	

## ■今後の維持更新コスト【従来型】

対象施設をすべて維持し、築50年目に同規模で改築する、従来型の維持管理を続けた場合、今後40年間のコストは158億円、40年間の平均は4.0億円/年と試算されます。

過去5年間の施設関連経費の平均（約0.6億円/年）と比較すると、約6.7倍の費用がかかることが見込まれます。

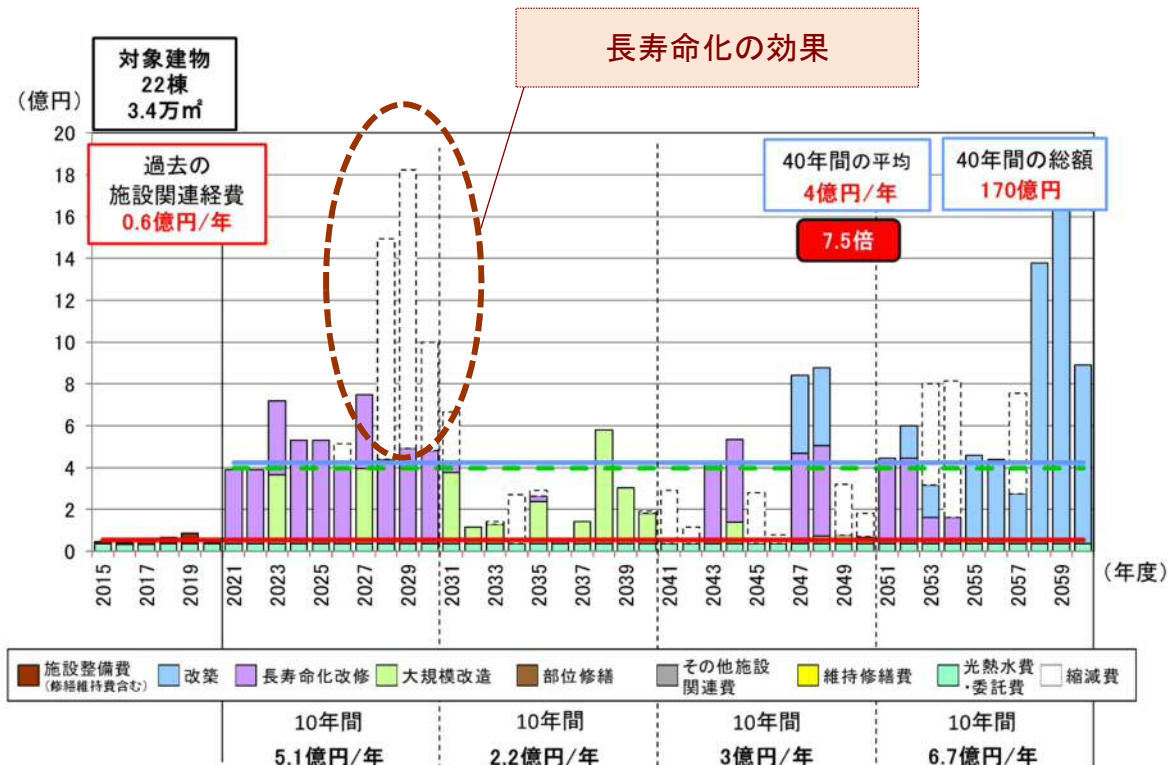


■今後の維持・更新コスト（従来型）

## ■長寿命化した場合のコストの見通し【長寿命化型】

従来型から長寿命化型への移行を図ることで、直近10年間における改築時期の集中は回避することができるものの、本町における過去5年間の施設関連経費の平均は約0.6億円であることから、従来型と同様に、これまでの費用を大幅に上回る財源を要することが見込まれます。

また、特に長寿命化改修の実施時期が集中する直近10年間と改築の時期が集中する期末の10年間には、試算総額の1年あたりの平均額（約4億円/年）を超過するコストの発生が見込まれることから、優先的に改修及び改築等を行うべき施設を選定することで計画的に改修及び改築等を実施し、コストの平準化を図ることが求められることとなります。



■将来の維持・更新コスト（長寿命化型）

## ■学校施設整備の基本的な方針

### 学校施設の長寿命化計画の基本方針

#### 基本方針 1 計画的な改修等の実施

- ・構造躯体や部位等の劣化状況、長寿命化の費用対効果、政策的な判断などを踏まえ、長寿命化を図る建物を選定し、それらに対して計画的な改修等を実施することで、財政支出の抑制と費用の平準化を図ります。

#### 基本方針 2 予防保全型の維持管理への転換

- ・予防保全型の維持管理へ転換し、設定周期に基づく計画的な点検や改修等を実施することで、既存施設を長期的に安全・安心な状態で利用し続けることを目指すとともに、維持管理コストの低減を図ります。

#### 基本方針 3 時代のニーズに即した機能向上

- ・ICT 環境の導入等による学習環境の充実や、改修等を実施する際は、バリアフリー化を進め、地域の拠点施設として誰もが利用しやすい施設を目指すとともに、省エネルギー化や再生エネルギーの活用等により環境負荷の低減を図ります。

### 学校施設の規模・再配置等の基本方針

全クラスが 20 人を下回る学校や、全学年単学級の学校がみられるなど、小規模化の進行に伴い学校ごとの児童生徒数に偏りがみられることから、今後は、規模・配置の適正化に関する検討が必要となるものと考えられます。

今後は、児童生徒数の増減や分布状況に注視し、改修等を行う際は、以下の点に考慮して規模・配置の適正化に努めます。

#### ■学校施設の減築

- ・児童・生徒数の動態や余裕教室の状況を踏まえ、必要面積を精査し、改修等を行う際は、減築するなど規模の適正化を検討します

#### ■学校施設の統廃合

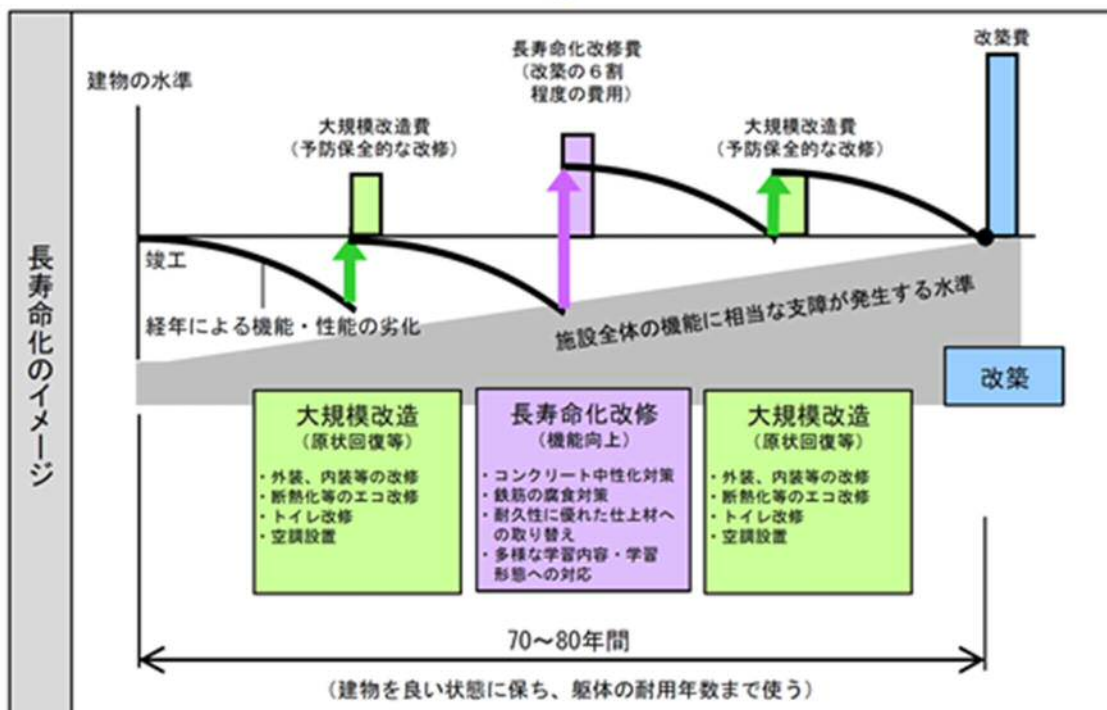
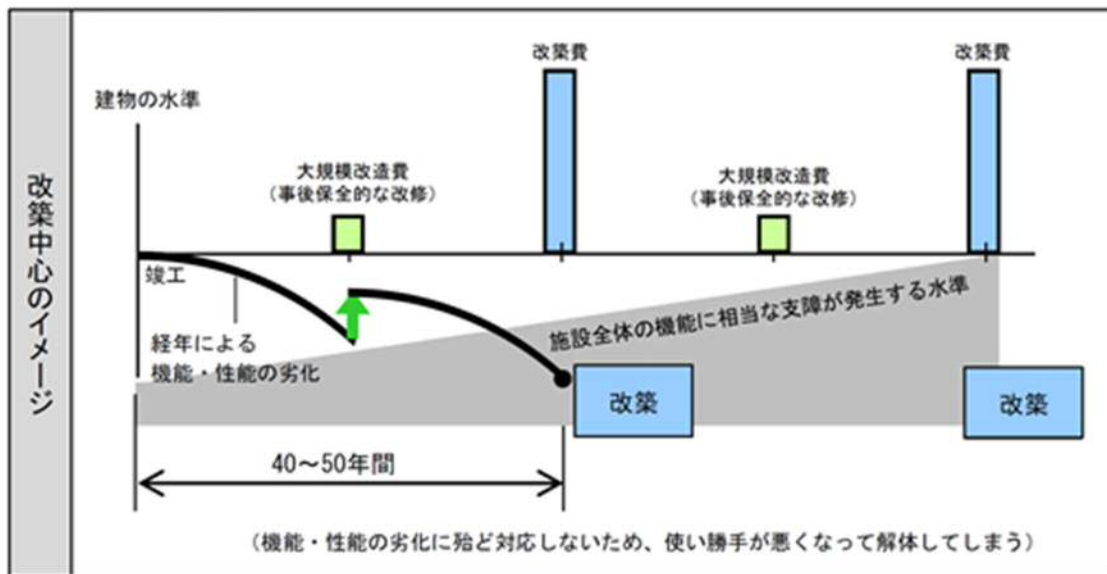
- ・学校施設は地域の重要な拠点施設となるため、通学条件などを考慮し、保護者や地域住民等との合意形成を慎重に行ったうえで、近隣の学校との統合や小中一貫校の整備等を検討します。
- ・閉校となった施設については、地域の活動拠点や防災機能に配慮した、跡地の有効活用の方法を検討します。

## ■改修等の基本的な方針

### 予防保全の考え方

建物をできる限り長期にわたって使用するためには、適切な維持管理を行っていくことが重要であることから、損傷や故障の発生に伴い修繕を行うような対症療法である「事後保全」だけではなく、機能低下の兆候を検出し、使用不可能な状態の前に補修等を行う「予防保全」を導入します。

「予防保全」を行うことにより、突発的な事故や費用発生を減少させ、施設の不具合による被害のリスクの緩和を図るほか、改修や維持管理にかかる費用を平準化し、中長期的なトータルコストを低減することに努めます。



### ■改修のイメージ



## 目標使用年数の設定

学校施設等の物理的な耐用年数は、「適切な維持管理がなされ、コンクリート及び鉄筋の強度が確保される場合には 70～80 年程度（学校施設の長寿命化計画策定に係る手引（平成 27（2015）年 4 月 文部科学省）」とされていることから、本町においても、長寿命化が可能な施設は、適切な改修等を実施することで、築 80 年まで使用することを目標とします。

## 改修等の方針

部位・設備等の更新周期に合わせて、計画的に更新を行うことで劣化に対処するとともに、社会的な要求レベルの変化に対応して建物の性能の向上を図ります。

築 40 年以上経過した建物については、構造躯体の長寿命化やライフラインの更新などによる建物耐久性の向上に加え、省エネルギー化や多様な学習内容・学習形態に対応できる環境の充実化など、社会的要請に応じた施設整備を図ることを目的に、長寿命化改修の実施を検討します。

### ■部位・設備別の標準的な更新周期

部位・設備等	主な内容	おおむねの周期
屋根・屋上	防水工事等	25～40 年
外壁	外壁塗装、コンクリート補修、シーリング等	20～50 年
外部建具	窓・扉等の部品交換、シーリング取替等	30～40 年
電気設備	受変電、発電・静止形電源、通信・情報等	10～30 年
機械設備	空調、換気、給排水衛生、消火等	15～30 年

## ■基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

### 改修等の整備水準

改修等の実施にあたっては、躯体の経年劣化の回復やライフラインの更新等といった建物の建築当初の水準に戻すだけでなく、省エネルギー化や学習環境の向上など、現在の社会的ニーズに対応するために基本的性能の向上を図ります。

長寿命化については、長寿命化に資する性能を備えた部材及び設備の積極的な採用を行います。

### 点検等の実施方針

これまでの法定の定期点検を引き続き確実に実施するほか、劣化状況に応じた適切な対処を早期に実施するために、定期的に建物の劣化状況調査を実施します。

劣化状況調査の結果等を考慮して、対象部位ごとに予防保全、事後保全の対処方法を決定し、計画的に修繕を行います。

劣化状況調査及び修繕の結果については、竣工図等の各種データと合わせて蓄積し、今後の劣化の予測、長寿命化改修の時期の検討に活用します。

町の職員による調査や点検のみであると、専門性に加え人員の確保が困難になることが想定されることから、既存の法定点検結果の活用に関する検討を推進します。

# ■長寿命化の実施計画

## 改修等の老朽化対策の考え方

建物の長寿命化にあたっては、改修・更新等費用の集中を避け、コストの平準化を図るために、経過年を踏まえて建物をグループ分けし、グループ毎に老朽化対策の考え方を整理するものとします。

### ■グループ毎の老朽化対策の考え方

グループ	経過年の目安	建物の状況等	主な老朽化対策
グループ1	築40年以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>老朽化の進行により全面的な改修が必要と判断され、将来的にも長期の利用が見込まれる建物は、詳細調査により構造躯体の健全性を確認したうえで、長寿命化改修の実施を検討します。</li> <li>近年大規模改造を実施しているなど、建物の健全度が高く、全面的な改修が不要と判断される場合は、部分的な改修による老朽化対策を基本とします。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 改築 <input type="checkbox"/> 長寿命化改修 <input type="checkbox"/> 部分改修
グループ2	築20年以上～40年未満	<ul style="list-style-type: none"> <li>劣化度評価結果を踏まえ、全面的に劣化が進行していると判断される場合は大規模改造、劣化が一部に留まると判断される場合は部分改修による老朽化対策を基本とします。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 大規模改造 <input type="checkbox"/> 部分改修
グループ3	築20年未満	<ul style="list-style-type: none"> <li>部位の更新周期に応じた部分的な改修を基本とします。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 部分改修

グループ内における優先順位は、大規模改造の実施状況や劣化状況に応じて算出される健全度評価結果に基づいて設定し、健全度が低く、劣化が進行する建物から順に、計画的に改修等を実施していくものとします。

### ■老朽化対策のグループと健全度の順位

グループ	学校調査番号	施設名	棟番号	建物名	構造	階数	延床面積	西暦	築年数	改修履歴	屋根屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度(100点満点)
グループ1	4	森戸小学校	16	校舎3(旧幼稚園園舎)	S	1	367	1974	46		C	D	C	C	C	31
	4	森戸小学校	14	校舎2	RC	2	827	1978	42		C	B	C	C	C	50
	6	境第一中学校	19	校舎1	RC	3	1,985	1979	41	大改(老朽)H24	B	C	C	B	B	52
	5	静小学校	15	校舎2	RC	4	1,754	1980	40		B	C	C	B	B	52
	5	静小学校	11	校舎1	RC	3	941	1972	48	大改(質的整備)R1	C	B	C	B	B	59
	5	静小学校	14	屋体	S	1	713	1979	41	大改(老朽)H24	B	B	C	B	B	62
	3	猿島小学校	13	校舎	RC	3	2,936	1978	42	大改(老朽)H23	B	B	C	B	B	62
	4	森戸小学校	13	校舎1	RC	3	1,938	1978	42	大改(老朽)H23	B	B	C	B	B	62
	2	長田小学校	10	屋体	S	1	713	1979	41	大改(老朽)H24	B	B	C	B	B	62
	3	猿島小学校	12	屋体	S	1	713	1977	43	大改(老朽)H24	B	B	B	B	B	75
	4	森戸小学校	12	屋体	S	2	713	1977	43	大改(老朽)H24	B	B	B	B	B	75
	1	境小学校	12	屋体	S	2	997	1978	42	大改(質的整備)R1	B	B	B	B	B	75
	1	境小学校	8	校舎1	RC	3	2,260	1967	53	大改(質的整備)R1、R2	A	A	A	B	B	94
1	境小学校	10	校舎2	RC	3	2,432	1975	45	大改(質的整備)R1、R2	A	A	A	B	B	94	
グループ2	6	境第一中学校	24	屋体	RC	1	1,410	1984	36	大改(質的整備)R1	C	C	C	B	B	49
	7	境第二中学校	14	校舎1	RC	3	399	1990	30		B	C	C	B	B	52
	6	境第一中学校	26	武道	S	1	527	1989	31	大改(質的整備)R1	B	B	C	B	B	62
	7	境第二中学校	12	武道	S	1	500	1988	32	大改(質的整備)R1	B	C	B	B	B	65
	7	境第二中学校	15	校舎2	S	1	253	1995	25		B	B	B	B	B	75
グループ3	7	境第二中学校	16	校舎3	RC	3	3,995	2003	17		B	B	B	A	A	81
	7	境第二中学校	19	屋体	S	2	1,254	2013	7		B	B	A	A	A	91
	6	境第一中学校	28	校舎2	RC	3	4,355	2007	13	大改(質的整備)R1	A	B	A	A	A	93
2	長田小学校	18	校舎	RC	4	4,112	2011	9		B	A	A	A	A	98	

## 今後の事業計画の方向性

学校施設の改修・更新等費用は、従来型から長寿化型への転換を図った場合においても、過去の施設関連経費を超過することが見込まれています。特に直近 10 年間は改修時期が集中することで、財政への負担はより一層の厳しさを増すことが予測されます。

今後、改修等の具体的な事業計画について検討を行う際は、上記に示す老朽化対策の考え方を基本としつつ、建物の用途などを考慮したうえで事業の実施時期・内容を定めるとともに、毎年度の予算状況や財政制約を踏まえて事業量を年度ごとに配分することで、コストの平準化を図るものとしています。

また、本町では、少子化に伴う児童生徒数の減少が見込まれるとともに、一部においては既に小規模校化も進行し、学校間における児童生徒数の偏りが生じている状況を踏まえ、今後、学校施設の適正規模・適正配置の検討を進めるものとしています。

これらの過程においては、保護者及び地域住民に加えて、学識経験者や学校関係者等によって構成される検討会での意見交換等も見込まれていますが、検討の結果、今後も維持し続けるとの方向性が定められた学校施設については、上記に示すグループ別の老朽化対策の考え方にに基づき、優先順位に応じた適切な改修等を実施し、長寿命化を図るものとしています。

一方で、検討により、統廃合等による廃校との方向性が示された場合には、旧校舎等の今後のあり方や活用方策についての検討を進めるとともに、必要に応じて改修等を実施し、施設の保全に努めるものとしています。

## ■長寿命化計画の継続的運用方針

### 情報基盤の整備と活用

施設の基本情報、光熱水費、修繕履歴等の情報をデータベースに整理して、一元管理することにより、計画的かつ効率的な維持管理を推進します。

### 推進体制等の整備

計画を継続的に実施するために、教育委員会を中心に関係課と連携し、全庁的な体制で取り組んでいきます。

学校施設の維持管理については、各学校の職員による劣化状況調査や法定点検による報告書を活用して、不具合の早期発見と修繕対応を図ります。

### フォローアップ

計画の進捗状況を把握・評価し、状況に応じて適切に改善を行います。

PDCA サイクルの考え方に基づいて計画の推進に取り組みます。特に、計画の見直しに際しては、長寿命化の実施状況、老朽化の状況を評価し、再検討を行います。

学校施設においては、計画的な大規模改修による施設の長寿命化を図り、既存施設を最大限活用していくことを基本としながら、中長期的には、今後の児童生徒数の推移を見据えた学校施設の配置や規模、運営面等、多面的な見直しなど、適正配置の方針を検討する必要があります。

## 境町学校施設長寿命化計画 概要版

令和3（2021）年3月発行

発行

境町

編集

教育委員会 学校教育課

〒306-0495

茨城県猿島郡境町 391 番地 1

TEL 0280-81-1300（代）

FAX 0280-86-7521

Eメール [gakumu@town.ibaraki-sakai.lg.jp](mailto:gakumu@town.ibaraki-sakai.lg.jp)